

# 第2章 実践計画

2021年→2025年

## 実践計画目次:

実践計画について

戦略①

戦略②

戦略③

戦略④

# 実践計画について

## 働くまちから 働いて暮らすまちへ「職住近接」

湖西市は、自動車関連産業が集積しており、製造品出荷額では、静岡県下で静岡市、浜松市に次ぐ工業都市です。働くまちとして、隣接する浜松市から約8,400人、豊橋市から約6,400人が通勤しています。

人口減少・少子高齢化が進む中、湖西市として持続的に発展するためには、この約15,000人にも及ぶ湖西市外からの通勤者、更にはその家族が、湖西市内に定住していただくことが生命線となります。通勤時間を家族だんらんの時間に変えることで、自然豊かな湖西市でのゆとりあるライフスタイルを実現していただくよう「職住近接」を更に推進していきます。

2020年初春以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響が社会に大きな変化をもたらしています。産業は、大きな打撃を受けており、雇用の維持と事業の継続に対する支援、更には経済活動の回復が急務となっております。

働くまちとして持続的に発展し、強みであるモノづくり産業を中心とした産業の活性化、モノづくり人材の育成を推進する必要があります。行政としても新たな日常に適応したデジタル・スマートシティの実現に向け、市民の利便性向上や自治体業務の効率化を図ります。

コロナ禍を契機に人々の生活や働き方も大きく変容しています。東京一極集中から地方回帰に傾いている今こそ、これらのニーズを的確に捉え、湖西市への移住定住につなげて、「働くまちから 働いて暮らすまちへ」湖西市は、生まれ変わります。

## 「重点」施策と「重点」基本事業

	重点施策	重点基本事業
暮らす	9 公共交通	BaaSの推進
	10 デジタル・スマートシティ	市民向けサービスの向上
	12 結婚・出産・子育て支援	保育の拡充
	20 住環境	土地の有効活用促進 畜産臭気対策
	23 移住定住プロモーション	マイホーム取得者へのアプローチ
働いて	16 産業活性	調整中 モノづくり人材育成
	18 工業・商業	企業立地の促進

## 実践計画の構成

- ・実践計画は、「KOSAI 2040」への第一歩として、2021年から2025年までの5年間の具体的な計画となります。
- ・4つの将来の理想の姿に対応し、4つの戦略をたてます。
- ・4つの戦略に、施策を体系化し、施策には主要な事業として基本事業を示します。
- ・戦略に「戦略目標」、施策に「施策成果指標」、基本事業に「KPI」と目標値を設定します。
- ・「KPI」は「施策成果指標」に向かい、「施策成果指標」は「戦略目標」に向かい貢献していく目標とします。
- ・「重点」施策、「重点」基本事業には「コーちゃんマーク」がついています。



## SDGsについて

SDGsとは「Sustainable Development Goals」の略で、2015年9月に国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において採択された国際社会の共通目標です。持続可能な世界を実現するため、2030年に向け17のゴールと169のターゲットから構成されています。

あらゆるステークホルダーが参画し、経済・社会・環境の相互のつながりを意識し、統合的に取り組むことから、基本計画の施策に関連する17のゴールを表記します。





## 戦略④ 交流

新たなつながりを築き、新しいひとのながれのあるまちをつくる

### 戦略方針

湖西市への移住・定住を促進するため、産業、自然、レジャー、歴史文化の全てを備える湖西ならではのライフスタイルや魅力を発信し、多くのひととつながりを築きます。

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大などに伴う新たな働き方や生活様式の変化を好機と捉え、湖西への新たな移住者の定着を図るとともに、首都圏など市外への若者の流出を防ぎます。
- ② 湖西への関心や関わりを築いてもらうため、魅力ある地域資源を最大限に活用し、積極的に市内外に向け情報発信をします。



湖西フォトコンテスト入賞作品



JR菟津駅の様子

#### 戦略④目次:

住環境	2
自然環境	4
観光振興	6
移住定住促進	8

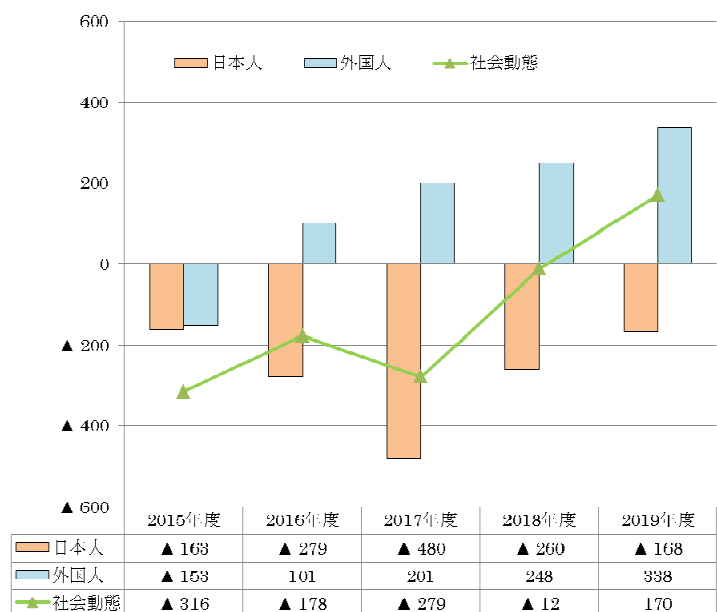
### 戦略目標

人口社会増減数(住民基本台帳)  
2021年4月から2026年3月までの

#### 5年間で人口社会増減±0

人口の増減の要因は、出生・死亡による自然動態と転入・転出による社会動態とに分類されます。この戦略では、住環境の改善や移住定住プロモーションなどの施策により、転入・転出による社会動態が均衡となる目標を設定します。

2015年度から2019年度までの社会動態は、日本人は2017年度以降回復の傾向がみられます。外国人については、一貫して増加傾向にあります。



湖西市の国籍別社会動態推移

湖西市の社会動態は2015年度から2019年度までの5年間で▲615人となっています

## 23★移住定住促進



### 現状と課題

湖西市は「働くまち」として、隣接する浜松市から約8,400人、豊橋市から約6,400人が通勤しています。この「働くまち」の特徴を十分に活かし、移住定住につなげることができれば、「働くまちから働いて暮らすまちへ」と生まれ変わることができます。

また、コロナ禍において、仕事のスタイルも変化し、テレワークを導入する企業も増加しています。このニー

ズを的確に捉え、移住定住につながるよう取り組むことが求められます。

通勤時間の軽減、自然の中での生活など、ゆとりある生活スタイルが実現できるまちを更にプロモーションする必要があります。



住宅展示場でのPR

### 施策方針

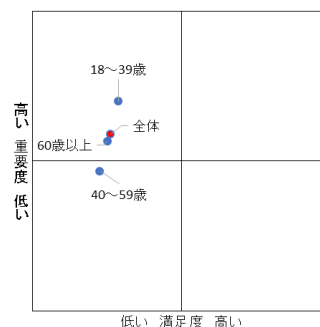
ライフイベント(就職・結婚・住居取得)に合わせ対象者に適切にアプローチし、必要な支援をすることで、湖西市が移住定住の選択肢となることを目指します。

### 市民ニーズ

「人口減少対策」

昼夜間人口差の解消のため、ゆとりある生活スタイルを提案し、職住近接の推進、移住定住の促進を行います。

満足度が低く、重要度が高い市民ニーズの高い分野です。特に若い世代の重要度が高い分野です。



### 施策成果指標

支援制度(住もっか・新婚さん・わ〜くわく)による転入者累計

**137**人(2019年) → **931**人(2024年) → **1,600**人(2040年)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	計	
住もっか	-	2	54	57	60	63	66	302	
新婚さん	37	98	50	90	100	110	120	605	
わ〜くわく	-	-	1	2	5	7	9	24	
年度計	37	100	105	149	165	180	195		
累計	37	137	242	391	556	736	931		
	実績値		目標値						



住もっかこさい定住促進奨励金のポスター

## 今後の展開

- ・静岡県内や首都圏への情報発信のほか、中京圏へ向けた情報発信
- ・住宅展示場や企業説明会などの場で積極的に移住定住のPR実施
- ・インターネットでのプロモーションの強化
- ・新・産業拠点浜名湖西岸地区の進展に合わせた移住定住支援の強化
- ・市内企業と協力し、社内報や動画などのツールを利用し、従業員の市内への移住定住を促進

## 基本事業

### 50★マイホーム取得者へのアプローチ



「職住近接」による、ゆとりある豊かなライフスタイルを提案し、若い世代の湖西市への定住を促進するため、市内に住宅を取得する世帯に対し、最大100万円の助成を行います。(令和元年10月より制度スタート)

#### KPI

住もっかこさい定住促進奨励金の年間申請件数

0件(2019年度)  
→126件(2024年度)

### 51 新婚世帯へのアプローチ

若い世代の移住定住、結婚支度資金の応援として、結婚を機に、湖西市へ転入する夫婦に対し、一律10万円を支給します。(平成30年10月より制度スタート)

#### KPI

新婚さんこさいへおいでん新生活応援金の年間申請件数

73件(2019年度)  
→ 80件(2024年度)

### 52 新社会人へのアプローチ

湖西市への移住定住促進と市内企業の雇用確保を目的とし、市内に住み、市内の企業に就職する若者に対し、企業と連携した奨学金返還支援補助金を支給します。(令和2年度より制度スタート)

#### KPI

わ〜くわく「こさい」で新生活！奨学金返還支援の年間申請件数

0件(2019年度)  
→ 9件(2024年度)

【インターネット広告】  
バナー広告に加え、検索キーワードに応じ検索結果の上位に広告結果を表示するリスティング広告など、より効果的な手法を採用します。

